「ダンスパーティ・ナビゲーター」として華やかに場を盛り上げる言葉の達人

プロ司会
高坂奈々恵さん

▲透きとおるようなクリアヴォイスが魅力！

★プロフィール：3月24日生。東京都出身。和服モデルから第34回ミス東京・ミス板橋区に選ばれる。島ダンススクール勤務後、東京アナウンスアカデミー卒。球場アナウンス、ナレーション、MC等、幅広く活躍。ダンス界でも、技術団体（GC、ED）や教室（大塚駅前アサノダンススクール、折山ダンススクール等）主催のパーティで司会者として活躍中。

●問合せ＝☎090（9642）9828
HP http://www5f.biglobe.ne.jp/~nanae/
E-Mail nanapyon@msd.biglobe.ne.jp
取材協力：オールマイティカット

4年前にダンスの司会を始めた高坂奈々恵さんは、流麗な声質とソフトな物腰が評判のダンスパーティ・ナビゲーターとして人気を集めています。「司会の仕事は、裏方でありながらも程良い華とエレガンスが必要。会場の飾りに例えると、出演者を照らすシャンデリアのようなものでしょうか。お客様との一体感を肌で感じられる瞬間が最高に幸せです。同時に、司会者はいつも一人。常に孤独と緊張感の背中合わせですので、何があっても冷静でうろたえないよう心がけています。今日より明日、次はもっと良い進行を目指したい――」と瞳を輝かせる高坂さんに、秘めたる想いを爽やかに明るく語って頂きました。

ダンスの司会をするため話す仕事を選ぶ！

「心を形にしようとするともろくて頼りないものだなぁと思います。言葉を尽くすことで、かえって嘘に聞こえてしまうことも…。言い尽くせない気持ちは、不器用でも想いの込められたひと言のほうが伝わるのではないでしょうか」。流暢な表現が、必ずしも真実の心を届けるとは限らないと話す高坂さんは、「司会者のくせに人見知りしてしまうんです」とはにかんだ笑顔を見せる。

10年程前の学生の時、愛好家のお母様の影響で、ダンス教室に勤務した経験がある。「見習いとして入り口に立っただけで、踊れるようになる前にやめてしまったので、裏方のことしか知りません。遺伝のためか踊りのセンスはゼロ（笑）。もともとアピールが弱く勝負事が苦手な性分なのは、司会の仕事でもマイナスになっている気がします。ただ当時から人に恵まれて、先生方にとても良くして頂いたんです」。ダンスを通して豊かな感性を育んだことが、司会者・高坂さんの原点となっている。

数々のパーティに出席するうち、「ダンスの経験を生かし、踊り手のための司会をしたい」と新たな夢を膨ませた高坂さんは、東京アナウンスアカデミーを卒業後、司会者へと華麗な転身を遂げた。「最初に教えて頂いた先生の真心のお陰で、ダンスの仕事に就いてると感じています。私の中に生き続けている何かを、もっと確かなものにしたい。やはり根っからのダンス好きなのでしょうか――」。

いつか日本インターの司会をするのが夢！

「パーティの司会をする時、アマとプロの部では、声のトーンや力強さも意識して変えます。アマの部はコメントを大事に、プロの部はムダを省きタイミングに気をつけています。特にアマの部には自分も出演させて頂いているためか、気持ちがよく分かるんです」。

例えばお客様がデモを踊り終えた時には、温かみのあるコメントでフォローを入れている。「ダンスの司会を始めた当初は、リハーサルを見て、一人ひとりのコメントを考えていたのですが、仕事を増やして墓穴を掘ったこともありました（笑）。今では3分の即興でも、同じことができるようになりました」。

また、自己満足にならないよう細心の注意を払うのもプロとしてのこだわり。「私も経験があるのですが、わざとらしいことは言ってほしくない。しかし、デモに出演される方は思い入れを込めて踊られていると思うんです。出演者とお客様の心と心をつなぐMCが大切ですね。最近よく『あまり喋らなくなったの？』と聞かれますが、場の雰囲気にMCがマッチしてきたのかなと思っています」。緊張している人には「深呼吸してみましょうか」と優しく語りかけたり、場の空気を読んで絶妙なタイミングでアナウンスを入れたりと、随所に心配りが光っている。

特にパーティシーズンは多忙を極める高坂さん。その合間を縫って没頭するのは、やはりダンス。「今教えて頂いているのは得地敏彰先生です。先生が独立する前から習っていますが、踊りが素晴らしいのはもちろん、一番すごいなと思うのは、言いにくいこと、本当のことをハッキリ言って下さるところ（笑）。ダンスも司会についてもですが、ハッとします。プロという立場に徹したリンとした姿勢には本当に憧れます」。

また、250本以上の結婚披露宴の司会を任された実績があり、明るく落ち着いた話し方に定評がある高坂さんだが、最近は落語やDJなどにもアンテナを張り巡らせ、ユーモアに富んだ粋な話し方も日夜研究している。

「これからの目標は、引退パーティをはじめ、沢山のパーティで司会を担当させて頂けるようになること。そしていつか、日本インターの司会台に立つのが夢なんです。でも、あくまで最初にマイクを握った時の気持ちを忘れず、丁寧でぬくもりのある司会を目指したいですね」と真っ直ぐに前方を見据え、ひたむきに語る高坂さん。初観戦の競技会で篠田忠・富子組の優雅な踊りに魅せられて以来、お母様との共通の話題もダンス中心。そんなダンスに恋して止まない司会者の心のこもった言葉に導かれ、ゲストの記憶に残るパーティが生まれるに違いない。